# 教育用コンテンツ活用推進

岡山県教育センター 指導主事 佐々木 弘記

### 1 はじめに

近年、Web上に公開された教育用コンテンツが、質・量共に充実してきている。それに伴い、教師向けの教材研究に役立つWebページや、児童生徒向けの学習支援に使えるWebページなどが数多く開発されている。しかし、授業で使いこなすためには、事前にWeb上に散在するコンテンツを検索、収集した上で、提示する順番に再構成したり加工したりして保存する必要があるなど、それに要する労力は小さくない。授業中、見せたいときに迅速に取り出して見せられるような構成で教育用コンテンツが蓄積、整理されたWebページの開発が必要である。

### 2 授業支援Webページの開設

教師が、ディジタル化された教育用素材を使って教材研究や授業設計をしたり、教育用コンテンツを授業中に提示して分かりやすい授業を行ったりすることができるように「授業支援Web~ージ」を開設した。授業支援Web~ージは、各校種、各教科・科目の、各単元・題材ごとに「授業のとびら」(図1)と「授業の道具箱」(図2)という2種類の枠組みで構成されている。「授業のとびら」は、教師が授業の準備をする際に参考にするためのページである。これに対して、「授業の道具箱」は、授業中にそのまま提示して用いるためのページであり、教師が活用する場面も、児童生徒が調べ学習や発表などで活用する場面も想定して作っている。

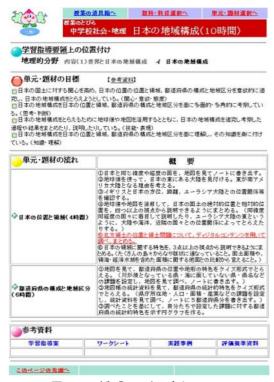


図1 授業のとびら



図2 授業の道具箱

### 3 授業支援Webページの活用

## (1) 「授業のとびら」の活用方法

- 「学習指導要領上の位置付け」「単元・題材の目標」の欄を参考に,自分なりの授業のねらいを設定する。
- 「単元・題材の流れ」「概要」の欄を参考に、目標の実現のための授業計画を立てる。
- 「参考資料」の欄の「学習指導案」「実践事例」「評価規準資料」を参考に、具体的な指導・支援の手だてを構想する。
- 「参考資料」の欄の「ワークシート」をダウンロードするとともに、必要に応じて改編したり、児童生徒数分印 刷したりする。

#### (2) 「授業の道具箱」の活用方法

- ① 授業の導入の段階
  - 教育用コンテンツ (動画,静止画,グラフ,地図,シミュレーションソフトウェアなど)を,素早く提示し,児

童生徒の関心・意欲を引き出す。

- ② 授業の展開の段階
  - 言葉だけでは分かりにくい内容の説明の際に、教育用コンテン ツを提示する(図3)。
  - 児童生徒の調べ学習の際に、各自のコンピュータで教育用コンテンツを繰り返し再生して確かめさせたり、リンク先を閲覧して詳しく調べさせたりして、個に応じた指導をする。
- ③ 授業のまとめの段階
  - 児童生徒が調べ学習を通して分かったことについて、関係深い 教育用コンテンツを自ら提示しながら発表させる。
  - 本時のポイントになるコンテンツを再提示して、学習内容を振り返りその定着を図る。

これらの活用の仕方をパンフレット「分かる授業のための授業支援 Webページ」にまとめ、県内の全教師に一部ずつ配付した(図4)。 パンフレットは、当教育センターのWebページからダウンロードできる。



図3 活用の様子



図4 パンフレット「分かる授業のための授業支援Webページ」(一部)

### 4 おわりに

本年度,当教育センターを中心に,県教育委員会指導課,岡山大学教育学部,県情報教育センター,県教育工学研究協議会,県内企業等からなるコンソーシアム「岡山県教育用コンテンツ活用推進委員会」を結成し、文部科学省から委託を受けて,教育用コンテンツ活用・普及事業を行っている。現在,県内の30名以上の教師に協力委員を委嘱し、教育用コンテンツを活用した授業の実践とその実践事例を収集している。さらに、各教科の研究会や研修会等で、教育用コンテンツの活用方法などを紹介し、その普及に努めている。

今後も、教育用コンテンツを使って教材研究や授業設計をしたり、授業中に提示して分かりやすい授業を行ったりすることができるように、一層授業支援Webページを充実させていく予定である。

○ 岡山県教育センターのWebページ: http://www.edu-c.pref.okayama.jp/